ルネッサンススピーチ

全日本学生優勝大会(佐藤宣践先生)

ただいまご紹介いただきました東海大学の佐藤です。

ベスト4が出揃って、これからとても白熱した試合が展開されて行くと思いますが。観客の皆さんどうか最後まで白熱した試合を楽しんでもらいたいと思います。

休憩時間を頂きまして、今、講道館と全日本柔道連盟が合同で行っている柔道ルネッサンス運動の話しをしたいと思います。この柔道ルネッサンス運動、5年前から始まったわけですが、柔道人が柔道人に問いかける運動なんですね。嘉納治五郎先生は、柔道は教育であると、こううたわれました。さて我々は、その思想に沿ってやってきたのだろうか？競技柔道の強さばかり追い求め過ぎてはいなかっただろうか？そういう反省のもとに起き上がったのがこの柔道ルネッサンス運動なんです。私も毎回々々、こういう大会の場をお借りしましてスピーチをしたり、いろいろな話をしてまいりました。「来た時よりも美しく」、会場が5年前に比べるととてもきれいになった、各地の会場がとてもきれいだったと、そういう報告が入っています。また「礼は柔道の美しい心」というキャッチフレーズのもとに礼法を正してまいりました。本日の礼法はとても良くなっていますね。これは大学生だけでなく、高校、中学、その他どこでも行われています。5年間の間にどんどんとルネッサンス活動のお陰で柔道は、良くなってきたとそう思います。

さて、我々大学柔道ですけれども、学校柔道の頂点に立つ大学柔道が更に発展すればするほど、日本の柔道が発展すると、そう自負しております。大学の柔道が盛んになるために、大学のスポーツが盛んになるために、スポーツ推薦制度、そういう入試も取り入れられております。ただ、ここで私は一つだけ付け加え申しておきたいのは、このスポーツ推薦制度で入った人達が大学に入ってから、なかなか基礎学力の面や生活習慣、そういうところから卒業できない、卒業していかない、そういう学生が増えている、そういう問題ががあがってきています。大学柔道は、もちろん柔道の強さを追い求めると同時に、それぞれの大学で、それぞれの学部で、それぞれの学科で、学問を研鑽することも大事なことではないでしょうか。

私の尊敬する福沢諭吉先生の言葉を皆さんに紹介してメッセージとしたいと思います。福沢諭吉先生は、あのお札の顔としても魅力あるのですが、学問のすすめのなかでこういう言葉を残しています。「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」こういう有名な書き出しがありますけれども、これは万人が知っています。されどここから、「されど勉強した人と、しない人の差が出るのはあたりまえだ」こう語っています。「柔道で稽古した人としない人で差が出るのはあたりまえ」と同じような論調ではないでしょうか。もう一つ、学問の目的というところでは、学問の目的は二つあり、一つは自己研鑽、自分を磨くことだと思っています。もう一つは社会貢献、学問を進めていって世に役立つ人間になって欲しい。この二つをあげています。

自己研鑽、そしてまた社会貢献になる学問をそれぞれの大学で、それぞれの学部で、それぞれ

の学科で研鑽していただきたいと思います。それが大学柔道にとって、また日本柔道の発展に必ず貢献するとそう思います。

ご清聴有難うございました。